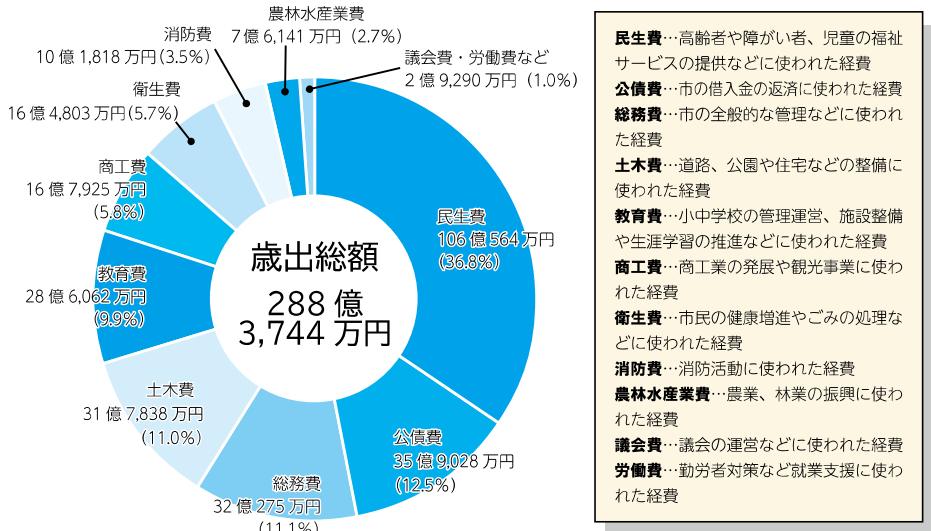


## 一般会計歳出

民生費は、屋代保育園改築事業などにより、17.1%増の15億4,554万円増加しました。公債費は、主に市役所新庁舎建設時や令和元年東日本台風災害で借り入れた市債の元金償還額の増加により、16.6%増の5億1,084万円増加しました。教育費は、信州の幸あみずホール(更埴文化会館)や歴史文化財センター上山田分室の施設整備事業などにより、12.5%増の3億1,860万円増加しました。

また、令和5年度は「千曲市誕生20周年」としてさまざまな記念事業を行ない、基金を活用して約5,400万円を支出しました。



### 令和5年度に実施した子育て関連事業の主な経費

#### ▶福祉医療費給付事業(子ども分) 1億7,264万円(民生費)

令和5年4月から、子どもの福祉医療費の受給対象年齢を15歳以下から18歳以下まで拡大しました。

#### ▶学校給食食材高騰分支援事業 1,520万円(教育費)

保護者の負担を増やすことなく安定的な給食を提供するため、高騰する食材費の増額分を公費により支援しました。

#### ▶15の春応援事業 1,563万円(民生費)

義務教育を終える子育て世帯の経済的負担を支援するため、中学校を卒業する生徒に3万円を給付しました。

## 市民1人あたりに使われたお金は 49万8,521円



民生費  
18万3,343円



公債費  
6万2,066円



総務費  
5万5,367円



土木費  
5万4,945円



教育費  
4万9,452円



商工費  
2万9,030円



衛生費  
2万8,490円



消防費  
1万7,602円



農林水産業費  
1万3,163円



その他(議会費、労働費)  
5,063円

\* R 6.1.1 現在の推計人口5万7,846人で算出

## 令和5年度

# 決算報告

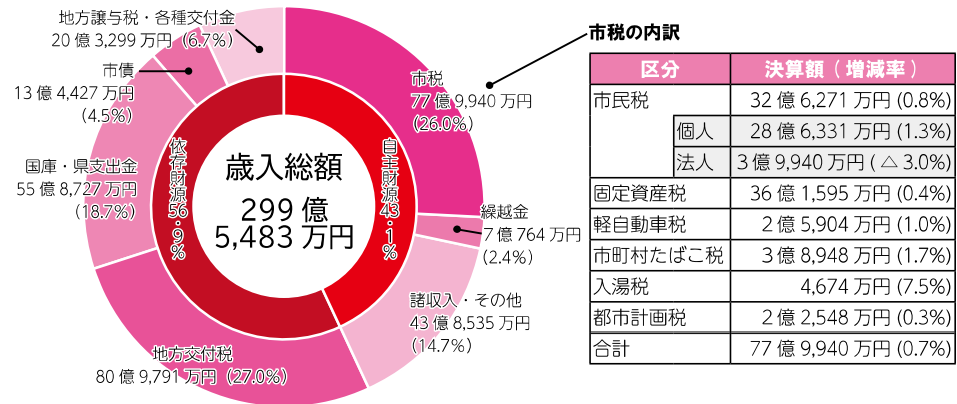
財政課(内線4154)

一般会計の歳入決算総額は299億5,482万5,652円で、前年度比9.4%増、歳出決算総額は288億3,744万2,780円で、前年度比10.4%増となりました。翌年度への繰越財源を除いた実質収支額は8億5,013万3,642円の黒字となりました。



## 一般会計歳入

市税は、個人住民税と固定資産税の増加により、全体で0.7%増の5,450万円増加しました。繰入金、財政調整基金や減債基金などの取崩額の増加により、695.8%増の16億6,973万円増加しました。国から交付される地方交付税のうち、普通交付税が5.9%増の4億1,189万円増加しました。市債は、屋代保育園改築事業などにもなう借入額の増加により、14.5%増の1億6,973万円増加しました。



## 特別会計・企業会計決算

特定の事業を行なうために一般会計と分けて設置される特別会計には、国民健康保険、介護保険と後期高齢者医療の各会計があります。他に企業会計として水道事業と下水道事業があります。各会計の決算概要は次のとおりです。

| 特別会計        |  | 歳入         | 歳出         | 差引額     |
|-------------|--|------------|------------|---------|
| 国民健康保険特別会計  |  | 52億5,376万円 | 52億3,053万円 | 2,323万円 |
| 介護保険特別会計    |  | 55億4,289万円 | 55億4,186万円 | 103万円   |
| 後期高齢者医療特別会計 |  | 9億2,982万円  | 9億925万円    | 2,057万円 |

| 企業会計    |              | 収入         | 支出         | 差引額             |
|---------|--------------|------------|------------|-----------------|
| 水道事業会計  | 収益的収支(消費税抜き) | 1億6,992万円  | 1億6,149万円  | (純利益) 843万円     |
|         | 資本的収支(消費税込み) | 8,690万円    | 8,996万円    | △306万円          |
| 下水道事業会計 | 収益的収支(消費税抜き) | 27億2,944万円 | 23億7,269万円 | (純利益) 3億5,675万円 |
|         | 資本的収支(消費税込み) | 8億1,518万円  | 22億2,701万円 | △14億1,183万円     |

\*金額は1万円未満の数を四捨五入しています。

\*水道・下水道事業会計の資本的収支の不足額は、補てん財源により補てんしました。

# 指標からみる市の財政状況

## 基金残高（一般会計）

140 億 1,548 万円

基金は一般家庭の貯金にあたるもので、支出目的に沿った事業、臨時の出費や財源不足が見込まれる場合に取り崩します。令和5年度は「財政調整基金」から7億円、「減債基金」から3億円、「社会福祉基金」から屋代保育園改築事業に1億7,600万円など、合計約19億1,000万円を支出しました。一般会計全体の基金は、前年度末から約9億円減少しました。

会計ごとの基金残高

| 会計          | 令和5年度末         | 令和4年度末         |
|-------------|----------------|----------------|
| 一般会計        | 140 億 1,548 万円 | 149 億 2,323 万円 |
| (内訳) 財政調整基金 | 46 億 3,577 万円  | 47 億 7,928 万円  |
| 減債基金        | 6 億 7,576 万円   | 8 億 9,555 万円   |
| その他特定目的基金   | 79 億 4,862 万円  | 84 億 9,323 万円  |
| 土地開発基金      | 6 億 5,051 万円   | 6 億 5,040 万円   |
| 奨学基金        | 1 億 481 万円     | 1 億 476 万円     |
| 国民健康保険特別会計  | 6 億 8,157 万円   | 6 億 8,156 万円   |
| 介護保険特別会計    | 14 億 8,342 万円  | 13 億 8,145 万円  |

## 市債残高（一般会計）

282 億 4,970 万円

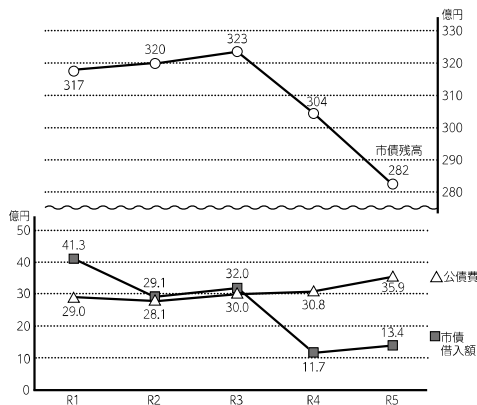
市債残高は、主に市役所新庁舎建設時や令和元年東日本台風災害で借り入れた市債の元金・利子（約35.9億円）を償還したため、約22億円減少しました。市債借入額は、屋代保育園改築事業などともなう借入額の増加により約1.7億円増加しました。

\*一般会計などの市債残高のうち、約73%が国からの交付税で措置されます。（実質的な地方債残高は74億4,000万円）

会計ごとの市債残高

| 会計      | 令和5年度末         |
|---------|----------------|
| 一般会計    | 282 億 4,970 万円 |
| 水道事業会計  | 6 億 2,637 万円   |
| 下水道事業会計 | 198 億 5,606 万円 |

市債の残高と借入額、公債費の推移（一般会計）



## 今後の財政運営

市の基金は、旧更埴庁舎や戸倉保健センターの解体工事などの財源としたことで、残高は減少しています。また、令和元年東日本台風災害で借り入れた市債の償還が始まっているため、公債費はしばらくの間、35億円を超える年度が続きますが、市債残高は順調に減少しています。

大型事業が控えるなか、安定的な財政運営を可能としていくため、今後も経費を抑制するとともに財政規律を守ることで、健全な行財政運営に努めていきます。

詳細は市ホームページの決算報告を確認してください。

## 市生涯学習講座で財政状況を説明します

市生涯学習講座には「市の財政について」という出前講座があります。職員が直接向いて市の財政状況を説明しますので、希望する団体は申請書を生涯学習課に提出してください。



▲市生涯学習出前講座について

## 標準財政規模

169 億 5,018 万 9,000 円

地方公共団体の一般財源（市税や普通交付税など）の標準規模を示すものです。令和5年度は主に普通交付税が増加したことで、前年度から約5億2,700万円大きくなりました。

## 財政力指数

0.502

3か年の平均で表すもので、財政力指数が高いほど自主財源の割合が高く、財政力が強い団体となります。指数が1を超える団体には、普通交付税は交付されません。令和5年度は、物価高騰など経済情勢の変化に対応するため普通交付税に臨時費目が追加されたことなどから、前年度から0.012悪化しました。

## 経常収支比率

94.9%

市税・普通交付税などの経常的に収入される一般財源が人件費・扶助費・公債費などの経常経費にどの程度充当されているかを表す比率です。比率が高いほど財政運営の硬直性の高まりを示しています。令和5年度は、新庁舎建設事業などで借り入れた地方債の元金償還開始による公債費の増額などにより2.5%悪化しました。

## 健全化判断比率・資金不足比率

令和5年度決算に係る財政の健全化判断比率と資金不足比率を公表します。市はどの指標も基準を下回り、良好な状態にあります。

### 健全化判断比率

実質赤字比率、連結実質赤字比率は、黒字のため「－（該当なし）」の表示をしています。実質公債費比率は主に元利償還金が増えたため、前年度から0.9%悪化しましたが、国の基準は下回っています。将来負担比率は、市債残高の減額により7.6%改善しました。

| 指標名      | 健全化判断比率<br>(千曲市) | 早期健全化比率<br>(国の基準) | 財政再生基準<br>(国の基準) |
|----------|------------------|-------------------|------------------|
| 実質赤字比率   | —                | 12.65%            | 20.00%           |
| 連結実質赤字比率 | —                | 17.65%            | 30.00%           |
| 実質公債費比率  | 10.7%            | 25.0%             | 35.0%            |
| 将来負担比率   | 5.3%             | 350.0%            | —                |

**実質赤字比率**…一般会計などに生じている赤字の大きさを財政規模に対する割合で表したもの

**連結実質赤字比率**…地方公共団体の全会計に生じている赤字の大きさを財政規模に対する割合で表したもの

**実質公債費比率**…借入金（地方債）の返済額（公債費）の大きさを財政規模に対する割合で表したもの（3か年平均で表す）

**将来負担比率**…借入金（地方債）など現在抱えている負債の大きさを財政規模に対する割合で表したもの

### 資金不足比率

公営企業の事業規模に対する資金の不足額の比率を示し、経営状況を把握するものです。水道・下水道事業会計ともに資金不足はなく、財政の健全性を保っています。

| 企業会計の名称 | 資金不足比率<br>(千曲市) | 経営健全化基準 |
|---------|-----------------|---------|
| 水道事業会計  | —               | 20.0%   |
| 下水道事業会計 | —               |         |